

世界中の子どもに写真教室を通じて「平和」を伝える



## 庄司 博彦さん (フォトジャーナリスト)

・富士見台6)



▲吉永第二小学校の6年生に写真撮影のコツを伝授

道写真家として活動する傍ら、6年前から世界各地の学校や施設を訪問し、ボランティアで写真教室を開いています。これまで8か国34か所をめぐり、出会った子どもは430人。中には、戦争や災害の傷跡の残る街も多くあります。

「きっかけは、世界同時多発テロの直後、取材で訪れたニューヨークでの出会いです。悲しみ沈む現場で、カメラにほほえみかけた少年の笑顔が心に焼きつき、活動を思い立ちました。が『平和』と思うものを撮つて

きて」と、使い切りカメラを渡すのです。瞳を輝かせながら、子どもたちが写す『平和』は、家族や友達の笑顔、日常の風景。でもそれは、プロには撮ることのできない、素直な心で撮られた写真です。教えながら、逆に私が教わることばかりです。

大地震で瓦れきと化したイランの街や、戦争の悲しみが今も残るベトナムの施設。どんな状況でも、子どもたちは強く生き、明るい笑顔を見せてくれます。

今、日本各地で写真展を開催中です。世界中の子どもたちが撮った写真を見て、私たちにとってごく当たり前の暮らしこそが、何より平和なのだということを、皆さんに感じてほしいですね」と熱く語ってくれました。

写真展「地球が教室」入場無料

11月9日～21日 駿府フジクローム館（静岡市葵区西草深町10-27）

※このテーマの写真集「写ルンです」で撮った平和」も発売中。



▲10月、ステーションプラザFujiでの展示会は大盛況！



## 富士天間ひょうたん会

魅力たっぷり！ひょうたん工芸。全国レベルの作品も



富士天間ひょうたん会は、来春で結成20年目を迎える、

ひょうたん工芸のグループです。会員は富士川以東に46人、月1回、作品づくりと情報交換を行っています。会員の皆さんは、「初心者から上級者まで、楽しめますよ。何より、趣味を通じて！」と和気あいあい。

ことし6月、静岡市で開催された「全日本愛瓢会」で、文部科学大臣賞（渡辺正躬さん）をはじめ、7人が受賞するという快挙を達成しました。

昔から、ひょうたんは「無病息災」の意味を持つ縁起物とされ、日本各地に愛好家がいます。種まきから収穫、加工まで、1年を通じて作業が続き、特に実がなる夏は、毎日目が離せません。だからこそ、作品が完成したときの喜びはひとしおです。

素材を生かしたシンプルな作品から、鮮やかに彩色した作品まで、年々創作の幅は広がっています。会長の漆畠博三さんは、「ひょうたんの個性を生かしながら、自分のアイデアを加え、世界に一つの作品をつくるのが魅力です。紙バンドと組み合わせるなど、富士市らしさを取り入れた作品を全国に発信したいですね」と意気込みを語ります。

また、出前講座として、小学校で栽培から作品づくりまでを指導しています。「ひょうたんからコマ」ならぬ「ひょうたんから笑顔」があふれている会です。



▲天間公民館での会合は、いつも明るい笑顔があふれています